

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [2456] FGF23 《CLEIA》

受託開始日

- 2019年12月2日（月）

FGF23

線維芽細胞増殖因子23（fibroblast growth factor23；FGF23）は主に骨細胞から分泌される血中リン濃度調節に中心的役割を果たすペプチドホルモンです。

FGF23は、腎近位尿管でのリンの再吸収抑制および活性型ビタミンDの産生抑制に関与し、血清リン濃度を低下させるだけでなく、副甲状腺における副甲状腺ホルモン（PTH）の産生や分泌を抑制することも明らかになっています。

FGF23の低下は家族性高リン血症性腫瘍状石灰化症の原因となり、遺伝子異常（XLH）や腫瘍（TIO）を伴うくる病・骨軟化症の患者において、血中FGF23濃度が健常人に比較して有意に高値であること、低リン血症やくる病・骨軟化症の病因鑑別においてFGF23測定が有用であることが報告されています。

FGF23の測定は2017年よりEIA法試薬にて研究検査として受託しておりますが、本検査は本年10月よりFGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症の診断時または腫瘍性または薬剤性骨軟化症の場合の治療効果判定を対象として実施料が適用されたCLEIA法試薬を用いた検査です。

検査要項

項目コード	2456
検査項目名	FGF23《CLEIA》
検体量/保存方法	血清 0.5mL *1,2 / 凍結 [容器番号：01番→容器番号：02番]
検査方法	CLEIA
基準値	30 pg/mL 未満*3 (FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症のカットオフ値) ※健常者参考値：19.9～52.9pg/mL
所要日数	3～6日
検査実施料	788点*4 ※以下を合算して算定できます。 [D007-61] 1,25-ジヒドロキシビタミンD ₃ 388点 [D007-62] 25-ヒドロキシビタミンD 400点 計 788点
判断料	144点（生化学的検査（I）判断料）
報告下限	5.0 pg/mL 未満
報告上限	100,000pg/mL 以上
報告桁数	小数1位、有効3桁
備考	*1：ビオチンは50ng/mLまで測定値に影響を認めませんが、高用量のビオチンを投与している患者の検体では測定値に負の影響を与える可能性があります。 *2：急速凝固管による採血は、低下傾向となりますので避けて下さい。 *3：低リン血症を示すくる病・骨軟化症において、測定値が30pg/mL以上の場合はFGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症が疑われます。 (くる病・骨軟化症の診断マニュアルより) *4：FGF23はCLEIA法により、FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症の診断時または治療効果判定時に測定した場合に限り、区分番号「D007」血液化学検査の「61」1,25-ジヒドロキシビタミンD ₃ の所定点数と「62」25-ヒドロキシビタミンDの所定点数を合算した点数を準用して算定できます。 ただし、診断時においては1回を限度とし、その後は腫瘍性骨軟化症の場合には腫瘍摘出後に1回、薬剤性の場合には被疑薬中止後に1回を限度として算定できます。